

博士論文要旨

サブサハラ・アフリカにおける農業開発と食糧安全保障の 新政治経済学

立命館大学大学院国際関係研究科
国際関係学専攻博士課程後期課程

ラジャウナリソン ハジャ ミッシェル
RAJAONARISON Haja Michel

政治経済学の観点から、本論文はサブサハラ・アフリカに展開する開発機関や民間セクターによって近年採用されている農業ないし食糧安全保障政策がなぜ機能していないのかを説明し、問題解決にむけた政策提言を行う。

本論文は3つの視点にそってその課題を問題化する。それらは、

第一に、開発分野における農業の課題

第二に、農業に大きなインパクトを与える資源の動員

第三に、グローバルな食糧安全保障のための穀物市場の安定化
である。

本論文は、アフリカの農業ならびに食糧安全保障政策を理解するため、複数の異なる方法を組み合わせつつ、二つのシステムチックなアプローチをとる。そうすることで、市場主導のパラダイムと官民協力ならびグローバルな価値連鎖が現地の小規模農業主の疎外に帰結していることを明らかにする。

そのようなアプローチに加えて、本論文はグローバルな食の安全を確保するためにグローバル市場を安定化させる基礎にも目を向け、アフリカ農業構造のメカニズム、政治的な動機、技術的ないし物理的条件を考察する。

本論文は、食糧安全保障に関する現代的課題に対するたんなる技術的な解法を超えることをめざし、そうしたアプローチはサブサハラ・アフリカの国々が自らの経済状況に依拠しつつ、農業との関連性を確立することが重要であると主張している。

本論文のおもな貢献は3つある。ひとつは、理論的バックグラウンドとなっている政治経済学に対する貢献であり、ふたつには、ここから導かれた能力主導アプローチとして概念化される研究に対する貢献である。最後に、軌道分析の手法を経済情報分析に応用することに対する貢献である。